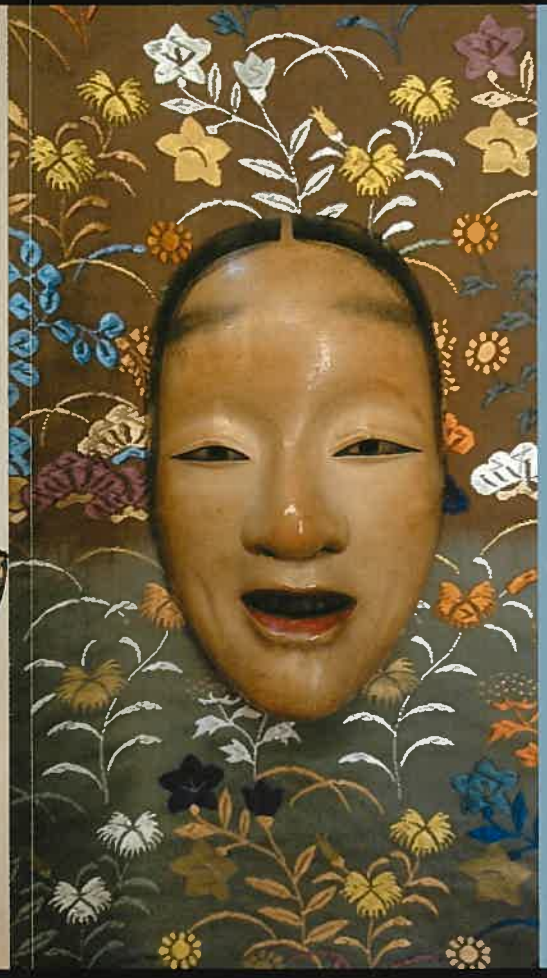
Kanzeryu Noh-Theatre Ryokusenkai

観世流 緑泉会



右：「雲林院」津村禮次郎（写真 吉越研）
中：能面「深井」　左：烏兜（ともに「富士太鼓」に使用）

能……富士太鼓 Fujitaiko ……桑田 貫志

狂言……見物左衛門 Kenbutsu-zaemon Fujitaiko-mai-ari ……野村 万作

能……雲林院 Unrin-in ……墨 敬子

令和元年度　第4回例会

12.14［土］PM 1:00～（開場12:00）

喜多六平太記念能楽堂

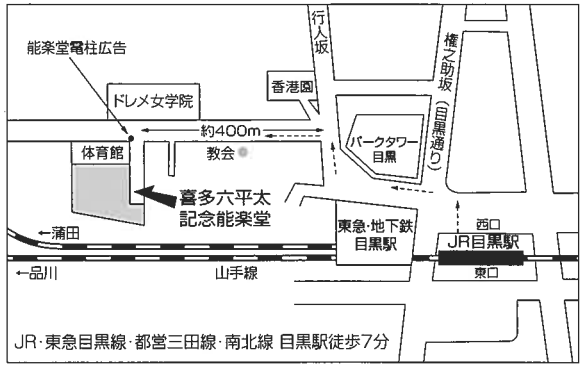
第4回例会

2019. 12.14 [土] PM1:00（開場12:00）

喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 品川区上大崎4-6-9 TEL 03-3491-8813

JR、東急目黒線、地下鉄三田線・南北線の目黒駅西口より徒歩7分。
香港園手前の道を左折し約400m直進、杉野学園体育館手前を左に入る。
※駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。



●入場料

会員券（年4回）……一般 20,000円　学生 10,000円
1回券（当日券）……一般 6,000円　学生 3,000円

●申込先：各出演能楽師または緑泉会まで

桑田　貴志　TEL•FAX 03-3643-0891
墨　　敬子　TEL•FAX 045-544-6787

緑泉会　〒184-0005 東京都小金井市桜町2-7-18
tel. 042-386-2131　fax. 042-386-2132

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。
演能や他のお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

令和元年度 第四回 例会 番組

能 **富士太鼓**

富士ノ娘 桑田大志郎
富士ノ妻 桑田 貴志
臣下 殿田 謙吉
下人 内藤 連
大鼓 亀井 洋佑
小鼓 幸 信吾
笛 藤田 次郎
後見 新井麻衣子　鈴木 啓吾
地謡 石井 寛人　坂 真太郎　河井 美紀　奥川 恒治　菅野 貞男　中所 宜夫　中森健之介　佐久間二郎

【休憩 十五分】

狂言 **見物左衛門** 深草祭

見物左衛門 野村 万作

仕舞 菊慈童　殺生石　山姥（キリ）
津村禮次郎　河井 美紀　新井麻衣子
地謡 中森健之介　中所 宜夫　中森 貫太　永島 充

【休憩 十分】

能 **雲林院**

在原業平 尉 墨 敬子
蘆屋公光 村瀬 慧
従者 矢野 昌平
北山辺ノ者 野村太一郎
大鼓 柿原 光博
小鼓 住駒 充彦
太鼓 桜井 均
笛 八反田智子
後見 河井 美紀　中森 貫太
地謡 筒井 陽子　杉澤 陽子　新井麻衣子　鈴木 啓吾　藤村 答　津村禮次郎　吉留 敬高　永島 充

附祝言

【終了予定 午後四時半】

能――**富士太鼓**（ふじたいこ）

萩原院（花園天皇）の臣下（ワキ）が登場し、四天王寺の浅間という楽人に決まっていた宮中での雅楽の太鼓の役を、住吉神社の富士という楽人が望んで争いとなり、浅間が富士を殺したため、富士の遺族を探している次第を語る。住吉に残っていた富士の妻（シテ）は不吉な夢を見て気にかかり、娘（子方）を連れて都に上る。臣下から富士の死を聞き驚くところに形見の装束が渡され、富士の妻はその死を受け入れ嘆き悲しむ。

その装束を付けると悲しみはいっそう募り、太鼓を夫の仇と思い定めて娘に太鼓を打たせれば、妻には太鼓が夫の幽霊そのものと見えて、なおも恨みを募らせて楽の演奏に合わせて太鼓を打つ。撥を剣、太鼓の火焔飾りを怨みの炎とする狂乱の舞は、やがて思いを昇華して、滂沱（ぼうだ）の涙とともに恨みを晴らす。形見の装束を脱ぎ捨てて太鼓を見れば、これこそ夫の形見と見置きて、妻と娘は帰って行く。

狂言――**見物左衛門** 深草祭（けんぶつざえもん ふかくさまつり）

見物左衛門と名乗る男が深草祭へ出かけ、途中で九条の古御所を見物する。競馬（くらべうま）では、乗りぶりや落馬する様を楽しみ、のぼり出し（棹の先につけた飾り）も眺め、さらに相撲見物に行き、自ら相撲を取ることになるが…。終始シテ一人で演じられる曲で、花見と深草祭の二種類がある。

仕舞――

菊慈童（きくじどう）…周の穆王より観音経の中の二句を書き写した枕を賜った慈童は深山幽谷に流され、その妙文を菊の葉に写すと、その葉より滴る水は薬の水となり七百年の齢を重ねた。慈童は菊に戯れて舞い、帝の長寿を寿ぎ、また山の中へと姿を消す。

殺生石（せっしょうせき）…かつて、玉藻ノ前という美女に化けて禍いをなした妖狐が、石の中から野干の姿で現れる。都を追われて那須野に至り、勅命を受けた三浦介と上総介に退治された次第を僧玄翁に顕し、以後悪事をしないと約束して姿を消す。

山姥（やまんば） キリ …月澄み渡る中現れた真の山姥。髪は雪の如く白く、眼の光は星の如き異形の姿。四季折々に花をたずね、月を求め、雪に興じ、山廻りする様を見せる。山の峰々を翔り、谷を渡り、また幽谷の中に消え失せる。

能――**雲林院**（うんりんいん）

伊勢物語を愛好する摂津の国芦屋の里の公光（ワキ）は、夢に導かれて都紫野の雲林院を訪れる。盛りの桜一枝を手折ると、老翁（前シテ）が現れてこれを咎める。二人は互いに古歌を引き合って花折の是非を問答し、それぞれの花を愛でる心を認め合う。公光は夢の詳細を明かし、老翁は、それが伊勢物語の秘事を授けようとの霊夢であると知らせて、自分が業平の化身であると匂わせつつ姿を消す。（中入）

公光の夢中に業平の霊（後シテ）が現れ、伊勢物語の芥川の段の秘事などを語り、かつての夜遊の舞楽を舞う。やがて月も山間に沈み、公光の夢も覚める。

●令和二年　第一回例会……2月15日（土）

能……西行櫻……中所　宜夫
能……善知鳥……坂　真太郎